キッズストリートプログラム～子ども参画型プログラムの提案～

ー職業体験のできる地域カフェの提案ー

a2200718　田中　恵美

«研究概要»

会津の中心部である大町通りでは現在、空洞化が深刻な問題となっている。その要因として考えられることの一つに中心市街地居住人口の減少と高齢化がある。つまり、まちづくりをしている人たちの多くも必然的に高齢化している状況にある。そこで、新しいまちづくりのプロジェクトとして、子ども参画型まちづくりのプログラムを提案する。

大町通りの空き店舗を活用し、子どもたちの仕事体験の場として、会津らしいカフェを考える。きっかけは、東京に子どもが職業体験のできるキッザニアを知ったことにあるが、子どもが職業体験できる場を大町通りに設けることは、まちづくりに子どもが自然に貢献できると考えた。

まちづくり団体であるアネッサクラブに協力してもらい、大町通りで比較的、集客の高い雑貨店 ZOO の空きスペースを提供して頂いた。そこで子どもが職業体験のできる『KUMA CAFE』を考える。KUMA CAFE では、子どもたちが楽しく学べる会津らしいカフェのデザインを提案する。

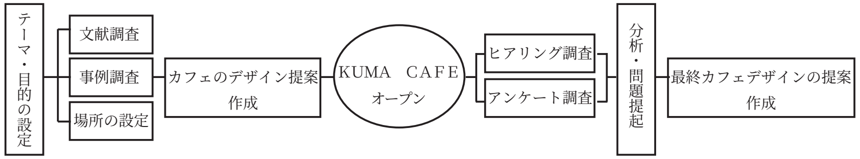
«研究目的»

1：まちづくりに子どもたちが参加	2：空き店舗の有効活用
3：商店街の活性化	4：子どもたちの仕事体験スペースの提供

子どもたちが職業体験のできるカフェでは、観光者＋現地の人々の利用にも繋がり、子どもが仕事体験をすることで遊びの延長から働くことの楽しさを知る事ができると考える。また、子どもたちや親同士の交流も増え、家とは違った子どもたちの様子が伺える。

大町通りの空き店舗を利用し、子供たちの仕事体験の場として大町通りをよみがえらせ、子どもや若者を呼び寄せ商店街全体に活気を取り戻すことを目的とする。

«研究方法»



実際に、子どもたちが職業体験ができるカフェを制作し、『KUMA CAFE』をオープンさせ、訪れた人や、参加してくれた子どもを対象に調査する。

«KUMA CAFE の提案»

KUMA CAFE の調査では、８月２日に大町通りにてアネッサクラブ Summer イベントが行われ、私たちは KUMA CAFE の宣伝として大町通りのイベントに参加した。８月２３日には、KUMA CAFE の仮オープンを一日行った。人数は親子２組の合計４名が訪れてくれた。問題点として、子どもたちの仕事の流れを私たちが把握していなかった為、手探り状態でやってしまった。必要な物が不十分、内装が寂しかった、などの多の反省点が挙げられた。この事を踏まえて本オープンではこれを改善し、KUMA CAFE の本オープンを 11 月 22 日に予定した。

参加してくれた親子

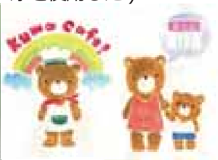
仮オープンの内装

«KUMA CAFE の制作»

本オープンの宣伝用紙では、子どもたちが KUMA CAFE の内容を簡単に理解できるように絵本を作成した。本オープンで使用する家具のデザインでは、KUMA CAFE から「クマ」の形を模った椅子や看板を制作した。椅子は大人用の椅子と子供用の椅子をそれぞれ７脚作り、看板は宣伝で作成した絵本を用いて８枚の板にペンキを使用して制作を行った。(子供用の座面に漆を使用した)

座面に漆を塗る作業

完成した家具



絵本

«調査結果・分析»

11 月 22 日の KUMA CAFE オープンでは、ZOO・紀州園・DOG HOUSE・遠藤時計店の４店舗が KUMA CAFE に協力してくれた。KUMA CAFE の作業では、10 日間の内６日間をホットケーキとクレープの盛り付けを子どもたちに担当してもらうことを考えた。KUMA CAFE オープンの初日には、会津若松市立日新小学校の６年生が７人訪れてくれた。

2008年度 卒業研究ゼミ発表要旨集

■大町通りの雑貨店 ZOO で、KUMA CAFE を１０日間行った。

（参加した子どもの人数＝【子】　大人の人数＝【大】）

11 月 22 日（土）:	【子】９人	【大】３人	12 月　６日（土）:	【子】１人	【大】１人
23 日（日）:	【子】１人	【大】５人	７日（日）:	【子】３人	【大】２人
24 日（月）:	【子】１０人	【大】８人	１２日（金）:	【子】０人	【大】０人
29 日（土）:	【子】８人	【大】５人	１３日（土）:	【子】３人	【大】０人
30 日（日）:	【子】５人	【大】５人	１４日（日）:	【子】７人	【大】６人

合計 :【子】４７人　【大】３３人　　８０名

子どもが職業体験ができるカフェを開き、調査したところ、合計８０名の方が KUMA CAFE に訪れてくれた。また、協力してくれた４店舗にも子どもたちが KUMA CAFE で貰ったキッズマネーを使用してくれ、紀州園では８人、DOG HOUSE では２人、遠藤時計店では１人、ZOO では多くの人が買い物をしていた。

KUMA CAFE で子どもたちにアンケート調査を行い、35 枚のアンケートが集った。KUMA CAFE に訪れてくれた方の中には、リピーターも多く、子どもの合計は４７人だが、何度もカフェに来てくれる子どもたちがおり、このような場が求められていることが実感できた。アンケートでは「またきたい」と答えてくれてた回答が多く、カフェの仕事をした中で、何が１番楽しかったか、の質問ではホットケーキなどの盛り付けや、お絵かきが楽しかったと回答しているのが多かった。

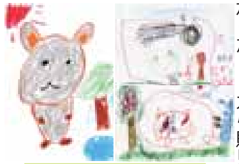
宣伝広告

KUMA CAFE に参加してくれた子どもの様子

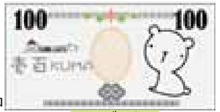
ヒアリング調査では、訪れてくれた大人の方を対象にして調査を行った。KUMA CAFE をオープンさせた事で、「会津に子どもが遊べる場が少ないから、こうした子どもたちが利用できる場が設けられると嬉しい」「家では、手や口が出てしまうが、じっくり見守る事ができた」「また、このようなカフェをやって下さい」などの意見が多く聞けた。

また、KUMA CAFE を行うことで、親子がこの場を通して、子どもの相談や会話をし、知り合うきっかけ作りになる事が解った。

貯金カード


KUMA CAFE で描いてくれた子どもの絵

KUMA CAFE の内装では、子どもたちのカフェの仕事の中に、お花や絵を描いてもらう作業をしてもらい、内装の一部として貼り出すと、次に訪れた親子が貼った絵を見て、楽しんでいた。この事からカフェの中がギャラリーの役割をする事が解った。



キッズマネー

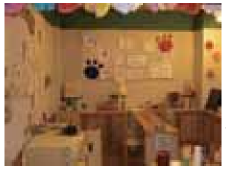
«問題提起»

カフェでの問題点では、メニューが少ない / エプロンの制作が間に合わなかった / 団体の子どもたちが訪れてきた時の対応が不十分 / 内装の制作が不十分などが挙げられる。KUMA CAFE に訪れた親子の中で「無料なら尚良かった」と言う意見のかたもいた。

地域との繋がりの問題点では、ZOO・紀州園・DOG HOUSE・遠藤時計店の４店舗が KUMA CAFE に協力してくれたが、KUMA CAFE は、通りに面していなく、雑貨店 ZOO の中で行っている為、ZOO の中でキッズマネーを使用している人が多かった。

この事から、今回の KUMA CAFE オープン調査の結果から、KUMA CAFE は通りに面したオープンカフェだともっと良かった / 大町通りには、子どもたちの集る場が少ないので空き店舗や、少しの空きスペースを利用して子どもが楽しめる場を設けると良いと思った / 親が子どもを預けるキッズサロンが必要だと思った / 子どもが訪れない店舗でも通りに面している所に、子どもが入ってみたいと言うものを設け、きっかけを作ると良い、など改善策が考えられる。

«子どもたちの職業体験のできる KUMA CAFE 提案»



制作中の最終提案模型

KUMA CAFE の提案は、大町通りのまちづくり団体の方と何度も話合って、協力して頂いた。最終提案は、模型で理想的な KUMA CAFE を再現し、提案すると考える。